

2012年度(平成24年度)

事業報告書



公益財団法人キープ協会

目次

公益財団法人キープ協会の公益事業と収益事業	1
-----------------------	---

公益Ⅰ．環境教育事業	2
------------	---

1. やまねミュージアム＝環境保全研究事業
2. フォレストアーツスクール＝環境教育指導者養成・普及事業
3. 八ヶ岳環境と文化のむら
山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター(指定管理事業)
4. 環境省・日光国立公園
那須平成の森・那須高原ビジターセンター運営管理業務
5. 環境研究所＝環境教育研究
6. 地域との環境教育事業

公益Ⅱ．酪農事業	10
----------	----

公益Ⅲ．研修交流事業	12
------------	----

- ・清泉寮・キープ自然学校・ポール・ラッシュ記念センター

公益Ⅳ．国際地域事業	15
------------	----

公益Ⅴ．保育事業	17
----------	----

- ・清里聖ヨハネ保育園
-

収益Ⅰ．製販事業	18
----------	----

収益Ⅱ．ホテル事業	21
-----------	----

管理本部	22
------	----

- ・広報部事業

■公益財団法人キープ協会の公益事業

- (清里エリア・公1) 環境保全および環境教育の研究と、教育・普及に関する事業
- (1) 環境教育セミナー
 - (2) 自然体験活動
 - (3) ヤマネ生態調査
 - (4) やまねミュージアムおよび八ヶ岳自然ふれあいセンター（施設展示）
- (那須エリア・公1) 環境保全および環境教育の研究と、教育・普及に関する事業
- (1) 環境教育セミナー
 - (2) 自然体験活動
- (清里エリア・公2) 高冷地での農業生産および地域農産物の高付加価値化に関する事業
- (1) 高冷地農業の研究開発
 - (2) 酪農後継者の育成
- (清里エリア・公3) 青少年および家族とそのコミュニティを対象に、心身の健全な発展や社会奉仕に資するレクリエーション・野外キャンプなどの体験活動・講習・研修活動・合宿活動に関する事業
- (1) 自然体験。酪農体験活動
 - (2) 青少年育成活動
 - (3) 植物療法セミナー
 - (4) ポール・ラッシュ記念センター（施設展示）
- (清里エリア・公4) 国際親善と開発途上にある海外の地域社会を対象とする支援・交流に関する事業
- (1) 国際親善
 - (2) 開発途上国への開発協力
 - (3) 地域活性化の研究・相談・助言
- (清里エリア・公5) 幼児の育成と子育てに関する事業
- (1) 乳幼児育成
 - (2) 自然体験活動

■公益財団法人キープ協会の収益事業

- (清里エリア・収1) 自家製食品および地域特産品等の普及・販売等に関する事業
- (1) 売店・レストラン
- (清里エリア・収2) 宿泊設備を使ったホテル営業
- (2) ホテル営業

公益 I. 環境教育事業

環境教育事業は、「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」に基づく、「体験の機会の場の認定制度」において、2012年12月10日に全国初の認定を受けました。

1. やまねミュージアム＝環境保全研究事業

(1) キープやまねミュージアムの役割

以下の役割を果たすために、後述の事業に取り組みました。

- ① ヤマネの総合的な研究
- ② ヤマネ保護と環境保全研究提案、ヤマネの視点からの森林生物多様性保全
- ③ 研究成果を活かした環境教育の普及

(2) 2012年度の重点目標

- ① 25年間に及ぶヤマネ研究成果の論文化を含めた社会への発信

表1 2012年度掲載メディア実績（感謝状授与含む）

メディア名	内容	年月
●学会		
第14回国際冬眠シンポジウム	ニホンヤマネの冬眠研究	2012年8月
●雑誌、テレビ、新聞、ニュースレター		
『雑誌 国立公園』	那須のアニマルパスウェイ	2012年6月
『地球環境とエネルギー』	ヤマネの保全活動	2012年8月
『理科教室』	ヤマネと保全活動	2012年10月
『エコレコあいち 創刊準備号』	アニマルパスウェイ	2012年10月
TBS テレビ 「風の言葉」	SAVE JAPAN プロジェクト	2012年9月
NHK 甲府 「まるごと山梨」	冬眠ヤマネとアニマルパスウェイ	2013年3月
毎日新聞 （山梨版）	アニマルパスウェイ	2012年9月
平成の森通信	アニマルパスウェイ	2012年2月
リス通信	アニマルパスウェイ	2012年4月
●その他（感謝状、国際学会誌）		
経団連自然保護協議会	活動に対する感謝状	2012年5月
ZOOLOGICAL SCIENCE	ヤマネの遺伝子に関する研究論文	2012年
The International Journal of Conservation Oryx	アニマルパスウェイ	2012年7月

②アニマルパスウェイの国内への普及と開発

- a. 那須平成の森、及び清里のアニマルパスウェイのモニタリング実施
- b. 「一般社団法人アニマルパスウェイと野生生物の会」の立ち上げ
- c. 上記法人との協働で絵本の作成し北杜市内の小学校に謹呈

③25年間の研究を土台にした研究のステップアップ

(3)-①②の研究及び提案を行いました。

(3)2012年度の事業実績

①ヤマネの総合的な研究の推進

- a. 生態学的研究：清里、隠岐、兵庫、ハンガリーで実施
- b. 食べ物の研究（京都大学と連携）：清里とハンガリーで採集した餌を分析中
- c. 生理学的研究（宮崎大学、関西大学と連携）：冬眠計測システムを試作
- d. 行動学的研究：人工繁殖を得るには至らず
- e. 遺伝学的研究（北海道大学、愛知教育大学と連携）：地理的グループの研究
- f. 形態学的研究（宮崎大学と連携）：体熱生産に関する調査実施
- g. 文化的研究：各地のヤマネの方言や文献等を整理中
- h. ヤマネを通じた自然環境変化のモニタリング：ヤマネ減少と要因を分析中
- i. ヤマネの宇宙滞在研究（京都大学と連携）：研究プロジェクトを発足

②ヤマネ保護と環境保全研究の提案

- a. アニマルパスウェイ（ヤマネブリッジ）の共同研究と普及：(2)-②の通り
- b. 森林開発に対する森林保全の提案：研究整理中、今後提案予定
- c. 林野行政への提案：未実施、今後森林保全策を提案予定
- d. 学会発表や論文及び多様な媒体を用い成果を世界に情報発信：表1の通り

③研究成果を活かした環境教育の普及

キープ・フォレストーズ・ズクールや八ヶ岳自然ふれあいセンターの事業の中で環境教育を実施しました。また、研究成果を展示に反映させました。

④受託調査

岡山県、山梨県での調査業務を行いました。

⑤「やまねミュージアム」の管理運営

- a. 研究成果を活かした効果的な展示：新規展示開発、展示研修を実施
- b. やまね企画展の開催：未実施
- c. ヤマネ関係の生物・文化・民族関係の物品の収蔵：未実施
- d. お客様満足度を高めるような工夫：展示入れ替え、カウンター配置変更

(4)開館時間及び休館日

- ①開館時間 10：00～16：00（8月は、9：30～16：30）
- ②休館日 毎週月火曜日（年末年始、夏休み期間、祭日、大型連休は無休）

表1：2012年度やまねミュージアム開館日数・入館者数等の実績

	2012年度	2011年度	増減／昨年比
年間開館日数	293	293	増減なし
入館者数	19,003	20,701	△1,698／91.7%
1日平均入館者数	64.8	70.6	△5.8／91.7%
利用団体数	59	61	△2／96.7%
団体利用者数	3,160	2,766	+394／114.2%

2. フォレスターズ・スクール＝環境教育指導者養成・普及事業

(1)キープ・フォレスターズ・スクールの役割

以下の役割を果たすために、後述の事業に取り組みました。

- ①環境教育プログラムの提供（主催事業・受託事業）
- ②環境教育プログラムの研究・開発
- ③環境教育ネットワークの支援
- ④「インタープリター」の役割の普及

(2)2012年度の重点目標

- ①エネルギー環境教育への取り組み
新規主催事業「エコ×エネ体験から学ぼう」（全8回）及び企業や自治体との協働で各種受託事業を実施しました
- ②地域と協働した環境教育プログラム開発と実践
北杜市や大門ダムと協働しました。
- ③環境教育事業30周年（2013年度）に向けて、これまでの実践の整理
事業部内研究グループで実践の一部を整理しました。また、整理した一部を日本環境教育学会で紹介しました。

(3)主催事業

「実験」「協働」「プログラム開発」という位置づけの下、以下のプログラムを実施しました。（表2参照）

表2：2012年主催事業の実績

	2012年度		2011年度	
	回数	参加者数	回数	参加者数
宿泊型環境教育プログラム	19	413	19	373
日帰り型環境教育プログラム (宿泊者対象プログラムは除く)	19	269	4	22
日帰り型地域対象環境教育プログラム	15	91	16	124

(4)受託事業

学校・企業・省庁・自治体などから受託事業を受入れました。(表3参照)

表3：2012年度受託事業の実績

区分	対象	主な利用団体
清里での プログラム	学校関係	立教池袋中学校、聖心女子学院初等科、各種公立学校、横浜女学院、青山学院短期大学、立教大学・大学院、明星大学、ハリウッド美容専門学校、東北大学大学院
	行政関係	林野庁、北杜市
	一般	日本環境教育フォーラム、NEC、NTTグループ、国土緑化推進機構、グリーン北杜、神社本庁
出張 プログラム	行政関係	栃木県、環境省、林野庁、富士吉田市外二ヶ村恩賜県有財産保衛組合、青少年教育振興機構、北杜市、青年海外協力協会、神奈川県青少年センター
	一般	中部電力、サントリーグループ、電源開発、JX日鉱日石エネルギー、伊豆半島ジオパーク
合計	222事業	

(5)指導教育

職員や新職員のスキルアップのための研修を行いました。また、事業部として4人の実習生を迎え、関係団体から2名の研修生を受入れました。さらに、複数の大学からインターン生を受け入れました。

3. ～八ヶ岳環境と文化のむら～山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター

(指定管理事業)

第2期指定管理委託の4年目、「山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター設置及び管理条例」の趣旨に基づいた管理事業に取り組み、「自然環境に関する情報と学習の機会を提供することを通して、山梨県の良好な環境の保全と継承に貢献する」という役割を果たしました。

(1)2012 年度のテーマと事業内容

①2012 年度のテーマ

「自然とエネルギー」と設定し、各種事業を展開しました。

②事業計画の柱

- a.館内展示、カウンター対応、インターネットなどを通して、自然情報を提供するビジターセンターとしての役割を果たしました。
- b.「自然とエネルギー」というテーマに沿って、プログラムや展示を通じた環境教育実践を行いました。
- c.以下の具体的な事業内容達成に取り組みました。

③具体的な事業内容

- a.施設展示（計画：随時更新）、プログラム（計画：1～2程度）の開発
「自然エネルギーペレットができるまで」など9つの新規展示開発、「自然エネルギーであったまろう」など5つのプログラムを新規開発しました。
- b.自主企画事業の実施（計画：1回）
CW ニコル氏の講演会、三枝亭次郎氏の落語会など3事業を行いました。
- c.自然資料収集のための調査
昆虫類・蛾類の調査を行い、配布用の資料を作成しました。
- d.教材開発
八ヶ岳自然ふれあいセンターの楽しみ方ガイドブック、植物ガイド（3種）を新規開発し、クイズラリーなど従来からの教材も充実させました。
- e.地域の拠点施設としての活動（施設利用の呼びかけと学習支援）
地域の学校へ出向いての出前授業の実施、地域のお祭りへの出展を通して、施設をアピールしました。
- f.周辺の文化施設(博物館・美術館)、地域にあるネットワークとの連携
ミュージアム甲斐ネットワーク、八ヶ岳ミュージアム協議会などに参画し、情報交換しました。
- g.自然ふれあい施設としてのハードの整備・施設維持管理
安全と利用者サービスの視点でセンター内外の修繕をしました。また、自然歩道の安全確認を行い、必要な情報発信をしました。

(2)開館時間及び休館日

①開館時間	1～2月、11～12月	9：00～16：00
	3～6月、10月	9：00～17：00
	7～9月	9：00～18：00

②休館日 毎週火曜日（年末年始、夏休み期間、祭日、大型連休は無休）

表4：2012年度八ヶ岳自然ふれあいセンター開館日数・入館者数等の実績

	2012年度	2011年度	増減／昨年比
年間開館日	322	324	△2
入館者数	92,433	92,699	△266／99.7%
開館（1994.11）以来の 総入館者数	1,594,051	1,501,618	
1日平均入館者数	287.0	286.1	+1／100.3%
利用団体数	297	331	△4／89.7%
団体利用者数	18,049	18,254	△205／98.8%
プログラム回数・参加者数	307／5,915	226／4,125	+81／+1,790

4. 環境省 日光国立公園

「那須平成の森」および「那須高原ビジターセンター」運営管理業務

管理運営の2年目として、2施設とフィールドの運営管理、各種プログラムを企画実践しました。

(1)業務内容

①那須平成の森

- a.フィールドセンター運営：表5の通り
- b.「インタープリターと歩く那須平成の森ガイドウォーク」「自然体験・学習プログラム」「無料ミニプログラム」、その他の事業のプログラム開発と実施（表5の通り）
- c.環境教育指導者養成事業の実施を検討
検討のためのワークショップを開催
- d.屋内外の展示制作
カウンター周辺の展示を季節に応じて随時更新
年3回更新する展示「生きものいっぱい那須平成の森」を制作
年間の来園者の動向調査を兼ね、来園者参加型展示「あなたはどこから来ましたか？」を制作展示
- e.公園の環境管理
月毎の巡視計画に沿って、危険箇所のチェック等を実施した。特に台風等の悪天候時は念入りに実施
- f.「那須平成の森基金」の事務局運営
基金の経理業務の実施

サポーターの会員管理(名簿等)の実施

サポーターの会の優遇プログラムの企画立案実施

助成に関する事務の実施

年2回実施される那須平成の森基金委員会へ事務局として参加

②那須高原ビジターセンター

a.ビジターセンター運営：表5の通り

b.那須甲子地域との連携事業

那須町や栃木県、地元団体等の協力を得て、地域交流を目的とした「なす
ビジ秋祭り」を企画立案実施

(2)開館時間及び休館日

①那須平成の森

a.開館時間 4～11月＝9：00～17：00、12～3月＝9：30～16：30

b.休館日 4～11月＝無休、12～3月＝水曜日休館（祝日の場合は翌日）

②那須高原ビジターセンター

a.開館時間 4～11月＝8：30～17：30、12～3月＝9：00～16：30

b.休館日 4～11月＝無休、12～3月＝水曜日休館（祝日の場合は翌日）

表5：2012年度那須平成の森・那須高原ビジターセンターの実績

	2012年度	2011年度	増減
●那須平成の森			
年間開館日	348	298 (5/22 開園)	+50
入館者数	99,426	126,018	△26,592
(内、立寄り団体利用者数)	24,569	36,159	△11,590
公募ガイド参加者数	2,333 (355回)	3,578 (399回)	△1,245 (△44)
公募ガイド特別編参加者数	138 (21回)	84 (10回)	+54 (+11)
無料ミニプログラム参加者数	5,795 (927回)	7,441 (990回)	△1,646 (△63)
受託団体プログラム参加者数	2,746 (91団体)	954 (48団体)	+1,792 (+43)
●那須高原ビジターセンター			
年間開館日	348	123 (11/13 開館)	+225
入館者数	35,971	10,122	+25,849
(内、立寄り団体利用者数)	12,127	3,589	+8,538

5. 環境研究所

環境教育事業部の柱の1つとして、事業部横断的に活動を行いました。

(1)環境保全研究

主にやまねミュージアムが担いました（詳細は1参照）。

(2)環境教育研究

①環境教育実践の整理・研究

参照：2-(2)-③

②キープ協会全体の教育活動の整理・研究

KEEP for the Future2013の一環として整理しました。

③指導教育に関する研究

実習生やインターン受入の実績を通して、指導方法を整理しました。

6. 地域との環境教育事業

(1)地域との環境教育事業

①八ヶ岳田んぼの学校

文化調査及び地元を対象とした「カエルっこクラブ」を10回開催しました。

②清里こども自然クラブ

地域の子どもとその保護者対象に5回のプログラムを行いました。

③地域の学校教育への協力

学校に加え、保育園への環境教育支援をしました。

(2)構成員としての関わり

①北杜市内各種ネットワークへの参画

環境教育関連の各種委員やネットワークの構成員を務め、北杜市の環境教講座等の講師を務めました。

②山梨県内各種ネットワークへの参画

環境教育関連の各種委員やネットワークの構成員を務めました。

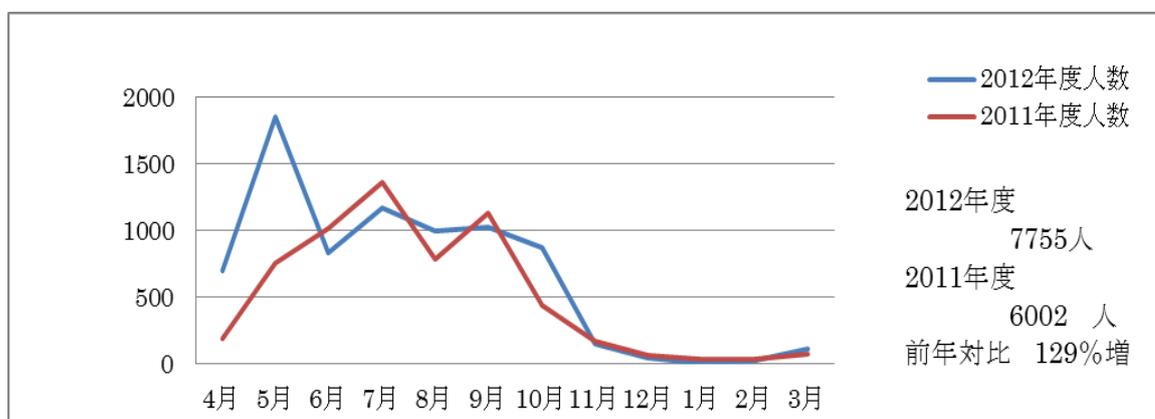
公益Ⅱ．酪農事業

1. 昨年度に引き続き、常時 130 頭のジャージー乳牛の飼育管理を主とした酪農業務に専念しました。そのうち 68 頭の搾乳を行い、総生産乳量 211,850 k g の牛乳を生産いたしました。その殆どはタカハシ乳業（群馬県、前橋市）に 200,650 k g 出荷、低温殺菌による製品化を経て、KEEP有機JASジャージー牛乳として、主に首都圏で販売、また消費者団体にも流通されました。高品質、安全、安心のジャージー牛乳として高く評価され販路も安定してきました。
 - ・主な販売先：帝国ホテル、伊勢丹百貨店、成城石井、明治屋、日本アクセス、ナチュラルハウス、他
 - ・消費者団体：所沢生活村、大宮みかんの会、大地を守る会、他
2. 山梨県の酪農経営の安定のため、山梨県畜産課、酪農試験場、西部家畜保健所、山梨県草地畜産会、改良協会、乳量検定組合等に乳牛飼育者の立場で協力いたしました。
 - ・草地管理面積約 72ha で畑、乾草、サイレージ用としました。
(採草地 45ha、放牧地 25ha、他で 2ha)
3. 教育農場としての役割を果たすべく一般の酪農体験をはじめ、日本大学生物資源科学部（20 名）、麻布大学獣医学部（15 名）、八ヶ岳中央実践大学校（1 名）鯉淵学園（1 名）、宇都宮大学（1 名）、合計 38 名の学生の体験実習を受け入れました。ゴールデンウィーク、夏休みやカンティフェア等の来場者が多い時期に、野外搾乳体験・ヘイライドなどを実施しました。
4. 清里ミルクプラントの協力を得て、ゴータチーズ等のジャージー牛乳製品を製造しました。また製販事業部の協力のもと、ジャージーの肥育牛（雄仔牛）の利用に努めました。
5. 家畜共済、畜産会の指導により、繁殖の向上を図るため、老廃牛を淘汰、飼料や牧草の安心安全、衛生面を改善し、有機JAS認定牛乳の生産販売に努めました。
6. 社団法人中央酪農会議より酪農飼料基盤拡大事業を実施いたしました。

7. 飼育頭数および乳量

飼育頭数	2012年度	2011年度	増減
成牛	71	74	△3
育成牛	32	31	+1
哺乳牛	27	15 (雄仔牛も含む)	+12
合計	130	120	+10
内 搾乳頭数	68	62	+6
総生産乳量	211,850 k g	186,650 k g	+25,200 k g

8. 酪農体験プログラム利用者数



公益Ⅲ．研修交流事業

研修交流事業は、研修の活動拠点としての宿泊施設清泉寮および自然学校と、キープ協会の心の拠点であるポール・ラッシュ記念センターを管理運営しています。2012年度は、公益部門として宿泊施設、展示施設をどのように特徴づけて運営し、且つキープ協会を知っていただくために多くの方に来ていただくか、また、公益活動に必要な資金を得てゆくかに重点を置きました。

1. 清泉寮

目標を達成するために下記の項目を掲げ実施してまいりました。

(1) 教育旅行の提案と受け入れ

	2012年度	2011年度	増減
団体数	52	45	+7
人数	7,989	5,541	+2,448

開発部の地道な営業活動に加え、関係者のご紹介、ご利用団体の推薦など多方面のご協力の結果と思われまます。

(2) 体験活動の提供

通常の宿泊施設との差別化、公益法人の宿泊施設の使命として、ただ宿泊するのではなく自然環境や癒し・歴史など体験を通して得ていただくことを目標としました。

提供実績	2012年度	2011年度	増減
種類	31	16	+15
回数	288	120	+168

特に夜のお話し会、星空観察会、たき火、ネイチャーガイドは人気で、その為に複数回訪れていただける方もおられました。

(3) 施設の貸与

地域との共生や公益としての使命としてホール等の貸出にも積極的に取り

組みましたが、施設の特徴として宿泊研修団体が多くを使用すること、場所的な問題等で前年とほぼ同数となり、増加させることはできませんでした。

(4) 利用人員の増加

この素晴らしい施設をより多くの方に利用していただくのも、キープを知っていただくことと同様に、収益面で非常に重要となります。

それに対するアクションとして、

- ① 企業、教育、研修、エージェント関係等への積極的なセールス
- ② ホームページやネットエージェント等を利用した、広報活動
- ③ リピーターを増やすためのサービスの向上、クオリティのアップ、ホスピタリティ活動の実施。
- ④ 各種プログラムの実施
- ⑤ 冬期対策として繁忙期の来場者への積極的なアプローチ

清泉寮	2012年度	2011年度	増減
延べ宿泊人員	38,979	36,038	+2,941
稼働客室数	13,802	13,242	+560
稼働率	53%	50%	+3%

2. キープ自然学校

自然学校は、団体専用の施設として特に教育関係団体に力を入れてゆくと同時に「森のようちえん」に代表される主催プログラムを開催して、公益法人として宿泊型体験活動を広めてゆきました。

- (1) 教育団体：直接あるいはエージェントへのセールス活動の効果が徐々に表れてきています。

	2012年度	2011年度	増減
団体数	95	74	+21
人数	8,923	7,826	+1,097

- (2) 主催プログラム：スタッフ不足、宿泊定員の減少、不具合客室の増加等により、回数及び泊数を削減せざるを得ませんでした。ただトータルの延べ利用人員は前年並みとなりました。

「森のようちえん」に代表される主催プログラムは非常に人気であり、毎回キャンセル待ちが多く出て、参加者調整に非常に時間を取られる状況であります。ただ主催プログラムは非常に準備と手間がかかり、現状のスタッフ規模ではこれ以上増やせない状況であります。

主催プログラム	2012年度	2011年度	増減
回数	40	41	△1
泊数	57	70	△13
延べ参加人数	2,213	2,284	△71

3. ポール・ラッシュ記念センター

ポール・ラッシュ記念センターは、キープの心の拠点であり広報施設でもあります。したがって、入館者数を増やすことおよび年間開館を目標としました。

	2012年度	2011年度	増減
入館者数	11,772	10,335	+1,437

清泉寮宿泊客へのミュージアムパスポートを作成し、フロントの協力を得て、清泉寮からの利用者が特に増加しました。

2012年度は、集客を促すため4回の企画展を実施しました。

第1回	4/27～	素顔のポール・ラッシュ
第2回	7/5～	博士の人脈
第3回	9/13～	カンティフェア
第4回	12/6～	清里ものがたり

公益Ⅳ． 国際地域事業

1. 国際・体験・地域連携・キャンプ場

(1) 国際交流・協力事業

- ① ケンタッキー州マディソン郡姉妹地域交流事業は、北杜市国際交流委員会に協力して次のとおり実施しました。
 - A. 北杜市代表団米国ケンタッキー州マディソン郡訪問事業 5月7日～16日
 - B. 米国ケンタッキー州マディソン郡中学生ホームステイ受入事業 7月28日～8月5日
 - C. ケンタッキー州マディソン郡代表団受入事業 10月9日～16日
 - D. 交流25年記念植樹及び覚書締結 10月13日
 - E. 子ども絵画交流事業 入選者表彰式・入選作品展示 12月1日～4月25日
- ② 国土緑化推進機構の補助金により、フィリピン山岳地帯(ベンゲット州ブギアス)における水源共有林の再生・保護事業を現地の環境 NGO(Cordillera Green Network)と協働して実施しました。2012年7月～2013年6月
- ③ イスラエル・パレスチナ・日本の青年平和交流事業(絆プロジェクト)を前年に引き続き NPO 法人ピース・フィールド・ジャパンに協力し開催しました。8月7日～9日
- ④ ツルガオ・プロジェクトの発展形” TITUS プロジェクト” は、スマデル村で構想されている灌漑プロジェクトのフィージビリティ調査を実施しました。従前の子女奨学金制度の見直しにより、新たに青少年リーダーシップ養成プログラムが開始された等の進展はあるものの、全体的には、まだ構想の域を出ていません。フィリピン聖公会北フィリピン教区とともに、基本計画策定を進めました。
- ⑤ 7月の米国聖公会コンベンションにおいて ACK と共にレセプションを主催。” TITUS プロジェクト” のプレゼンテーションを行いました。
- ⑥ タンザニアとの交流のある NPO とともに、タンザニアをテーマにした国際理解プログラム「清里タンザニア村」を開催しました。5月3日～5日

(2) 体験部

- ① 清泉寮新館オープンを機に、ワークショップ系の NPO と新しい関係ができ、それを発展させてきました。東日本大震災復興支援事業として、ユースコミュニティリーダー育成プロジェクト(清泉寮・キャンプ場でのワークショップ)を共催しました。
- ② 植物療法ネットワークにより生まれた体験プログラム・アロマセラピー体

験等を提供しました。

- ③ 映画「西の魔女が死んだ」ロケセットの公開要望に応じて、年間 42 日オープンしました。入場者数は 3,431 人。
- ④ やまなし観光推進機構がウエルネス・ツーリズムを提唱、その協議会に参画し、モニタリングツアーを企画実施しました。
- ⑤ 東京都内大学の女子大生による地域活性化事業「ハナラボ×北杜市未来シナリオプロジェクト」の立ち上げに協力しました。

(3) 地域連携

- ① ポール・ラッシュ祭～八ヶ岳カンティフェア～2012 を 10 月に開催、その事務局を担当しました。10 月 13 日～14 日
- ② 北杜市長期滞在型リトリートの杜事業コンソーシアムの事務局に協力し、地域の異業種交流、滞在型プログラムの開発に参画しました。
- ③ 地域農業者による農産物直売所「清里朝ねぼう市」の運営に協力しました。また、JA 中巨摩東部の要請による昭和町の農産物直売所での乳製品の製造・販売の立ち上げに協力しました。
- ④ 良い食品づくりの会に参画し、良い食品博覧会の開催に協力しました。その他、フォーラムや勉強会については食育部が参画しました。

(4) その他の事業

- ① キャンプ場は、前年比 120.8%と利用増をみましたが、目標達成率は 60%。稼働率の向上に課題を残しました。
- ② 東日本大震災復興支援活動は、ユースコミュニティリーダー育成プロジェクトを通じて関係のできた被災地支援 NPO と、東北復興ギャザリング、なつかしい未来創造株式会社、復興協働ネットワーク等に参画しました。また、ニューヨークの NGO の要請に応じて、被災地に画具を贈る Art in a Box プロジェクトに協力しました。
- ③ 新たな会員組織「フレンズ・オブ・キープ」の開設準備室を始動し、募金活動に関する調査研究とホームページのリニューアルにあたりました。
- ④ 教育旅行の提案・獲得などに努めました。

公益Ⅴ． 保育事業（清里聖ヨハネ保育園）

キリスト教の精神に基づき「一人ひとりを祝福する保育」を使命とし、神様の愛とやさしさ、思いやりの心・自然体験・国際感覚を柱として、特に幼児の主体性を大切にし、豊かな感性を育むことを心がけ、その環境づくりに努力しました。

1. 異年齢時保育の継続

従来どおり実施しました。2013年度も引き続き、ヨハネ保育園の異年齢児保育をさらに充実させていきます。

2. 自然学校・森のようちえん♪プロジェクトとの連携

レンジャーと森に出た回数は前年度とほとんど変わりませんが、担任と森や散歩に出る事も多くありました。

場所：キープ内の森（テントの森・鹿の森・うさぎの森・りすの森等）
吐竜の滝・保育園の近くの川・牧草地・飯盛り山登山等

3. 環境教育・国際理解プログラム

互いの立場を理解し文化や生活の違いを知り「お互いを受け入れる」「認め合う精神」「平和教育」につなげました。国内、伝統行事を知ることにより、日本の大切な事を伝承していきます。

(1) 6月22日（金） 韓国のことを知るプログラム。

(2) 8月8日（水） イスラエル・パレスチナの方との交流。

(3) 2月28日（木） 英語であそぼう

(4) 七夕・ひな祭り・お正月遊び

4. 安全・安心な給食提供と食育の実践

子どもたちに、給食担当から食材の説明を分かりやすく行い、保護者には実際に食べたものを降園時に伝えました。園庭の花壇で米づくりをし、生長する過程を観察し食べました。園庭の花壇でトマトやナスを育てて食べました。1ヶ月に一度、食材の放射能検査を実施しました。

5. 保育士の資質の向上

園内研修 4回（河邊貴子先生 聖心女子大学）および外部研修の実施

6. 保育園施設改善計画

2013年度着工、2014年度竣工、2015年度供用開始をめざして、建設委員会・ワーキンググループ会議・募金委員会を開催しました。

収益Ⅰ．製販事業

キープ協会が行う公益事業の経済的基盤を支える製販事業部としては、収益の確保を重点課題とした事業運営および、「生産・収穫—加工・製造—販売・消費」の一貫体制の確立を柱とする“いちばん美しい農場(MBF)プロジェクト”のテーマに沿った事業展開を行いました。

1. 売上動向 (金額：千円)

	2011年度	2012年度	前年比
売店	332,626	318,028	95.6%
ソフト	162,005	160,474	99.1%
飲食	58,817	60,104	102.2%
その他	554	538	97.1%
合計	554,002	539,144	97.3%

- (1) 2011年度の東日本大震災による影響から回復することを見越して、前年比107.4%と売上げ増を目論んだ強気の予算を組み、予算必達を期して2012年度に臨みました。しかし、結果は予算比90.6%、前年実績比において97.3%と予算には遠く及びませんでした。部門別の内容では飲食、ベーカリー収入がほぼ対予算で100%に到達し、ソフトクリーム売上げは前年比では健闘したものの予算比90%、売店では87%となりました。売店売上げの減少については、土産品販売において近年の行楽客の消費動向の変化によるところが大きいと考えられます。
- (2) 経費支出においては変動費部分の抑制に努力しましたが、予算上の損益確保までには至らず、最終的に部門損益達成率は80%弱となりました。

2. 重点業務報告

(1) 集客、滞在時間延長、客単価向上の対策

- ① キープホームページにおいて、自然環境の素晴らしさを伝える画像（凧上げによる空撮写真、虹、酪農体験、レンタル凧、ウインタープロジェクトなど）を掲載し、キープの魅力を訴え集客を図りました。
- ② 各店舗のインフォメーションディスプレイに、ジャージー牛乳の生産から販売に至るまでのプロセス、酪農体験の案内、5店舗の内容紹介、キープのイベントやプログラムの案内などを常時放映し、キープでの滞在時間の延長と客単価の向上を図りました。
- ③ 接客サービスの充実に努め、各売り場にて商品の説明やおすすめ商品の紹介などを積極的に行いました。
- ④ キープ・ウインター・プロジェクトへの積極参加による冬期集客に努めました。

(2) 自家製造品の増産（前年比）

- ① 飲食メニューの高付加価値化に欠かせない自家製のバター（106.7%）
- ② 自家製ヨーグルト（106.5%）
- ③ 無添加ソーセージ（105.8%）
- ④ パン工房売上（107.0%）

3. 通常業務

- (1) 清泉寮ギフトショップ・清泉寮ジャージーハット・清泉寮セレクトショップ・清泉寮パン工房・キープファームショップの5店舗の運営および通販事業
- (2) 広報・集客の機会としての出張販売の積極参加
- (3) 地域生産品、フェアトレード製品などの公益性のある製品の利用と販売
- (4) 飲食業における「人と地球の健康」をキーワードとしたメニュー展開
- (5) 店舗周辺環境美化およびガーデン管理
- (6) 購買の一元化による効率的な仕入管理
- (7) POSシステムの有効利用による仕入・在庫管理
- (8) 業務の効率化によるコスト削減
- (9) 外注に頼らないことによるコスト削減
- (10) 各店舗間における職員・スタッフの柔軟なシフトによる人事の効率化
- (11) 年間の業務平坦化を目指し、冬期集客により安定的な人員配置

4. 出張販売

場所	事業名	期日
長野 東急百貨店	ズームイン!!サタデー 全国うまいもの博	4/5～4/11
高知 高知大丸	ズームイン!!サタデー 全国うまいもの博	5/9～5/16
甲府 山交百貨店	山交パンフェスタ	5/23～5/28
日本橋 三越	長野・山梨特集	6/27～7/3
豊橋 ほのくに百貨店	甲斐と信濃の国の物産展	8/23～8/28
名古屋 丸栄百貨店	山梨の物産と観光展	9/6～9/12
川崎 日本食肉流通センター	ちくさんフードフェア	10/6～10/7
船橋 東武百貨店	につぼんの味	10/25～10/31
双葉 ラザウオーク	ちくさんフードフェア	10/27～10/28
新潟 新潟伊勢丹	ズームイン!!サタデー 全国うまいもの博	10/31～11/5
羽村	羽村市産業祭	11/3～11/4
甲府 山交百貨店	山交パンフェスタ	11/15～11/25
藤沢 さいか屋	山梨の物産と観光展	11/21～11/27
静岡 静岡伊勢丹	ズームイン!!サタデー 全国うまいもの博	12/18～12/25
甲府 山交百貨店	山交パンフェスタ	3/21～3/24
浜松 遠鉄百貨店	ズームイン!!サタデー 全国うまいもの博	3/21～3/27

	2012年度	2011年度	前年比
件数	16	14	+2
ソフトクリーム売上	10,835 千円	10,002 千円	108.3%
物販売上	3,093 千円	2,530 千円	122.3%
合計	13,928 千円	12,532 千円	111.1%

収益Ⅱ．ホテル事業

清泉寮の施設を利用して、一般の宿泊客などを受け入れました。
また宿泊だけではなく、立寄りでのレストランのご利用もいただきました。

- ① 食育ということをメインテーマに安心できる食材を手作りにこだわって提供しました。
- ③ クオリティを重視し、他の施設との競合を避け施設の特色をだしました。

レストラン	2012年度	2011年度	増減
団体数	112	90	+22
人数	4,965	3,908	+1,057

特に味と内容（価格に比して）が素晴らしいということで、リピート団体が増加し、また、高単価の料理提供の要望が増加しました。

管理本部

キープ協会の管理部門として本来の基本業務の原点に戻って、トップマネジメントと現場とをつなぎ、全社的コミュニケーションの管理を担い、他部門のサービススタッフとなり、全社的活動の推進に努力しました。

また、広報部ではより多くの人々への広報活動に努力しました。

1. 組織体制

管理本部には、総務部・経理部・施設部・広報部を置き、ランドスケープ P J T 室とも連携を取り、公益財団法人の管理部門を担当しました。

2. 広報部事業

当協会には、観光地として人気の清泉寮本館エリア、農場エリアなどを中心に、年間約 100 万人以上が訪れていますが、創設者ポール・ラッシュ博士のことや当協会の活動についてはまだまだ知られていないのが現状であります。当協会の活動を多くの人に知ってもらうため、各種情報を発信して集客とリピーターの獲得に努めました。

(1) 広報活動

- ① 来訪者が清泉寮エリア（ポール・ラッシュ記念センター～清泉寮新館～本館レストラン～ジャージーハット～八ヶ岳自然ふれあいセンター～やまねミュージアム）と農場エリアを利用しやすいように、毎月の施設案内の情報を記載した清泉寮エリアマップを各施設で配布しました（年間 30,400 枚）
- ② K E E P 各部署の活動を紹介した総合リーフレットを配布しました（年間 3,000 枚）
- ③ キープ協会自然歩道マップの配布（年間 15,000 枚）… 英語・中国語・韓国語版は清泉寮等で配布しました。
- ④ ホームページの管理とフォロー、メールマガジンの発行（7月まで）。

(2) 撮影、放送、雑誌取材などメディア対応

テレビ東京の旅番組 2 件、地元テレビの取材、CM 撮影、その他観光関係の雑誌取材、写真提供等

(3) 旅行ガイドブック取材対応

清里・八ヶ岳・蓼科版 マップルマガジン（昭文社）全国 7 万部発売。るるぶ（JTB 出版）清泉寮新館、ジャージーハット、ファームショップ、自然歩道など巻頭カラー 6 ページで紹介

農場のジャージー牛を取り上げることが多いのですが、残念ながら口蹄疫や伝染病等の問題があり、放牧風景の見学や動物とのふれあいは難しいですが、案内表示などが必要です。

(4) K E E P内に対する情報提供

- ①週報を毎週土曜日に発行して内部への情報をできるだけ提供してきましたが、インターネットのホームページには各部からの情報が随時アップされており、情報量の多さにスタッフが対応できていたか難しいところです。
- ②毎月1回 各部署のトピックをまとめた情報「KEEPなう」や体験プログラム案内などを発信しました。
- ③全てのスタッフがメールを読んでいるか、またホームページを開いて情報を得ているか、さらに各部での情報伝達の仕組みやコミュニケーション、関係部署との連絡が十分であったかなどの調査は実施できませんでした。

